

●社会の変化

平成28年9月3日（土）に行われた第4回若者まちづくりミーティングでは、「社会の変化に対応した新たなまちの姿を考える」というテーマで、主に、公民館、小中学校、保育園、児童館といった「地区利用型施設」について話し合いました。人口減少や少子化・高齢化、生活スタイル、働き方などの変化に対して、地域はどうあるべきかを考え、それを公共施設でどう実現するかを議論しました。

身近な公共施設である学校を取り上げて議論したところ、「地域の拠点とする」、「多世代が集まることのできる場とする」、「学校で子育てができる」といった将来の学校の役割についての意見が出され、具体的には公民館、児童館、図書館などの複合化・多機能化の提案が出されました。また、「部活動、課外活動は学校で完結せずに地域全体で行えると良い」、「地域の住民が利用することにより、監視の目が行き届き、安全性が高まるのではないかと」といった地域社会との連携に関する意見も出されました。

●西浦地区の将来の姿を考えました

参加者が2つのグループに分かれ、参加者の内、最も多くの方が居住している西浦地区を題材に取り上げ、どうすれば地域の活力が高まるかを議論しました。以下ならびに右図のとおり、公共施設の複合化や、既存施設や空き家の活用について提案が出されました。

【Aグループ】

- 保育園・公民館を学校に複合化。高齢者が子どもを孫のように育てる交流の場に。
- 豊かな自然を活用する。「公園の中にある学校」のような、他に無い施設とする。
- 西浦地区に限らず、図書館分室など、あまり知られていない施設がある。今ある施設を最大限活用することが必要。
- 形原地区の住民も利用できる形とし、利用者を増やす。

【Bグループ】

- 児童館・公民館等を学校に集約する。勉強スペース、創作スペース・ギャラリーを空き教室を活用して整備する。
- バスの沿線などを中心に、空き家の活用を進める。例えば、地域のサークル活動の拠点にする。
- 暮らす人にとって必要なものは何かを考え、複合化・多機能化していく必要がある。

